

北海道議会議員
安住たかのぶ
活動報告

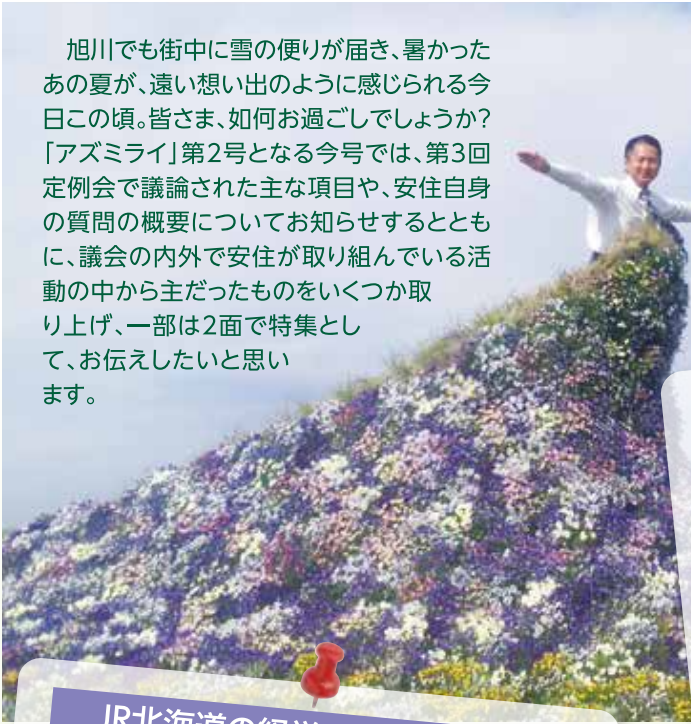
アズミライ

azumirai
magazine

02

produced by Azumi Takanobu office

旭川でも街中に雪の便りが届き、暑かったあの夏が、遠い思い出のように感じられる今日この頃。皆さま、如何お過ごしでしょうか？「アズミライ」第2号となる今号では、第3回定例会で議論された主な項目や、安住自身の質問の概要についてお知らせするとともに、議会の内外で安住が取り組んでいる活動の中から主だったものをいくつか取り上げ、一部は2面で特集として、お伝えしたいと思えます。



北海道ガーデンショー

上川町「大雪森のガーデン」をメイン会場に開催されていた「北海道ガーデンショー2015」オープニングセレモニーに、実行委員会参与として招かれ出席しました。

セレモニー後の内覧会でガーデン内を視察中、「ドレスガーデン」にて

北海道消防操法訓練大会

江別市にある北海道消防学校で行われた全道の消防団員による消防操法訓練大会に、来賓として招かれ出席しました。



旭川から出場した団員の皆さんと

JR北海道の経営問題に係る調査

相次ぐ事故やトラブルに加え、路線廃止問題等で大きく揺れているJR北海道の経営問題に係って、国土交通省鉄道局の方々と意見交換を行いました。



仲介の労を取っていただいた山田参議の国会事務所にて

北海道森づくりフェスタ植樹祭

和寒町で行われた「わっさむ開村100周年記念事業～北海道森づくりフェスタ植樹祭2015」に、「北海道森林・林業活性化推進議員連盟」所属議員として招かれ出席しました。



小雨振る中、記念の植樹をしているところ

旭川市アンテナショップ視察

どこにいても故郷、旭川のことは忘れません！昨年9月、東京都新宿区の「ローソン新宿イーストサイドスクエア店」内にオープンした旭川市のアンテナショップ「旭川食ベマルシェ」を、上京の機会を捉えて視察しました。



イベント紹介で来ていた旭川観光大使で高校同窓の朝妻久美さんと

パークゴルフの会「大雪PGC」納会

今年は春と秋の2回出場し、いずれも名誉ある？BBM(ブービーメーカー)だったことから、記念の「猛打最下位賞」をいただきました(笑)。

会の監査を仰せつかっているパークゴルフの会「大雪PGC」の納会にて



インターン学生との2ヶ月間



8月1日～9月30日までの2ヶ月間。若者の政治意識と投票率の向上を目指して活動している団体『NPO法人ドットジェイピー』主催の学生向け「議員インターンシッププログラム」に参加。道内の大学生4名をインターン生として受け入れました。

期間中、学生の皆さんには、安住に付き従って議会内外でのあらゆる活動や現場を見学、参加してもらうことで、道議会議員の日常や政治活動を幅広く知っていただき、また安住自身の考えについても理解を深めてもらいました。

具体的には、

- 議会での質問や各種調査、道職員や様々な団体の皆さんとの意見交換の傍聴
- 所属する奉仕団体『プロバスクラブ』で出店していた「さんろく祭り」のお手伝い
- 後援会事務所でのお手伝いや支援者訪問への同行
- 若手の農家や食関連事業者の方々と、定期的に開催している勉強会で企画した「農と食と観光のパイオニア(先駆者)を訪ねるツアー」への参加
- 北大公共政策大学院(母校です)現役社会人院生との教育懇談会(社会勉強のための飲み会です(笑))
- 安住が副実行委員長を務める「まちづくりプランコンテスト」実行委員会への参加
- 同じく安住が代表を務める『あさひかわサポートネットワーク』主催、福島や近隣の母子(家族)「夏季一時保養受入プログラム」のお手伝い(学生の皆さんは合宿)
- 現在、道議会内で準備が進んでいる「飲酒運転根絶条例

(案)」の実効性を高めるための、条例案比較検討とインターン生としての提案取りまとめ等々です。

お互い見ず知らずで集まった4名でしたが、最終日の懇親会では、「今度は忘年会!同窓会もやろう!」といった話で大盛り上がり。「こんな風に一緒に、議員やインターン生同士、語り合ったりカラオケに行ったりできるのも、インターン先が安住議員の所だったから」との言葉には、「やって良かった…」との思いが込み上げました。

一部、上記文中にも出てきますが、実は、こうした若者や若手との交流を図る取り組みは、現在、安住が最も力を入れている活動分野のひとつです。

道議会議員への当選は申し上げるまでもなく、紆余曲折ありながらも、こうして今の私があるのは、多くの先輩、支援者の皆さまからのお引き立て、ご指導ご支援の賜物です。

右も左も分からない政治の世界に、初めて足を踏み入れてから今年で17年目。28歳だった安住も45歳になりました。この先、自分に与えられた時間と為すべき仕事に思いを馳せた時、志を引継ぎ、さらに発展させてくれる次の世代の方々への責任が伴う年代でもあると考えています。

同時に目下、道政最大の課題となっている人口減少に歯止めをかけ、若者もお年寄りも全ての道民が、未来に希望を持って日々の暮らしを営んでいけるようにするためには、安心して産み育てることができ、雇用の場も確保された、若者が留まれる北海道づくりが欠かせません。

そうした思いに立ち安住は、道議としての仕事に様々な活動に、精励している毎日です。

お茶とランニングを生涯の趣味として



—昨年の秋から始めたお茶とランニング。お茶は遠州流茶道、成名庵(じょうみょうあん)に通い、ランニングは河川敷や常磐公園で取り組んでいます。わずかな時間ながら自分を見つめ直しリフレッシュでき、新たな出会いや経験も得られる、本当に貴重なひと時です。

例えば、昨年、今年と、私も呈茶の機会をいただいた「旭川食ベマルシェ」茶席に、たまたま見えた市長ご夫妻に、私からお茶を点て、差し上げることがあったり…「旭川ハーフマラソン」に初出場、完走!できたり…

また、走ることで地域活性化を目指す2回の「キラキラナイトラン」に両回とも参加。その関わりで今年5回目となる女性向け走るイベント「スイートガールラン」の公道利用に向けたお手伝いをさせていただくなど、公私ともに、お茶とランニングを通じた活動が大きく広がっているところです。

楽しみながらの修練と鍛錬。ずっと現役で仕事を続けるための基礎づくりにも手は抜きません(笑)



平成27年 第3回定例会

約62億円の補正予算案可決

9月8日(火)から10月2日(金)までの日程で、第3回定例会が開催されました。

主な案件としては、地方道路や河川の改修事業を中心に、農地の集積・集約化を目的として、農地の貸付けを行った農業者等に支払われる協力金の交付(農業構造改革支援)関連事業、都市圏の企業等において事業の企画や運営に実績を有する(プロフェッショナル)人材活用による、道内中小企業等の経営改善を目的とした産業人材育成(人材還流拠点整備)事業、生徒数増加に伴う「知的障がい高等部」増設のための特別支援学校施設整備事業など、合計およそ62億円の平成27年度一般会計補正予算案が提案され、日本共産党会派の反対を除く賛成多数で、原案通り可決しました。

凌雲高校は「永嶺(えいりょう)高校」に

また、旭川に直接関係のあるところでは、平成28年4月1日より、旭川凌雲高等学校の名称を「旭川永嶺高等学校」に変更することなどのため行う「北海道立学校条例」の一部改正条例案が提案され、同じく、日本共産党会派の反対を除く賛成多数で、原案通り可決しました。

その他、上記2件を除き、地方税法の改正に伴う「北海道税条例」の一部改正条例案や、任期満了に伴う各種委員会・審査会等委員の選任同意案など、議案26件が提案され、「北海道公安委員会委員」および「方面公安委員会委員」の選任同意については、日本共産党会派の反対を除く賛成多数で、その他の議案については全会一致で原案通り可決しました。

会派所属議員による質疑・質問

私が所属する「北海道結志会」の代表質問には山崎泉幹事長(帯広市)が立ち、安全保障関連法案やTPP交渉など、知事の道政執行にあたっての基本姿勢および北海道の地域外交など道政の当面する諸課題等について質問を行いました。

また、一般質問については、白川祥二議員(空知管内)、新沼透議員(オホーツク西地域)の2名が、予算特別委員会では、中山智康議員(伊達市)、浅野貴博議員(留萌管内)、安住の3名が立ち、それぞれ当面する道政課題、地域課題について道の取組みを質しました。

「安全保障関連法案」に対して

なお、今定例会では、第2回定例会において北海道結志会として提出、自民党会派、公明党会派などの反対多数で否決された「安全保障法制の慎重審議を求める意見書」と同趣旨の、民主党会派から提出された「安全保障関連法案の慎重審議を求める意見書」に、結志会として賛成したものの、反対多数をもって否決されました。

その後、民主党会派は、参院での法案可決を受け再び決議案提出の動きを見せたことから、同会派に対し、「否決された同趣旨の意見書・決議案を、同一会期内で繰り返し出すことには反対」の旨申し入れましたが、10月1日、「9月19日未明に成立した安全保障関連法採決に抗議する決議」が提出されました。

上記経過から会派として採決には加わず退場しましたが、本質的な論議が深められることなく、6割以上もの国民に理解されないままの状態で「安全保障関連法案」に賛成はできないとの立場は変わりません。

予算特別委員会

第3回定例会では、予算特別委員会委員として、概ね、以下のような趣旨と内容で執行部に対し質問いたしました。



質問の概要

保健福祉部

1. 地域医療について

知事が最大の課題とする人口減少問題。北海道では近年、富良野一市に相当する人口が毎年減っている。食い止めるには日々の暮らしの今に安心を、未来に希望を取り戻すしかない。その柱のひとつが地域医療。周産期医療（産科）提供体制の確保や道立病院の経営改善等について質問。

2. 手話言語条例（仮称）について

国や自治体に言語としての手話利用環境の整備を義務づける「手話言語法」制定を求める意見書が、道議会を含め全道180ある全ての議会で可決されたこと等を受け、手話言語条例制定に向けた取組みの概況や、すべての方の意思疎通を支える環境整備に向けた取組み等について質問。

環境生活部

1. 水道事業における小水力発電の導入について

水道事業では、維持費が膨らむ一方、人口減少に伴い料金収入は減り収益が悪化。値上げが不可避となってきた現状を踏まえ、水道管等に小水力発電設備を導入、得られた利益や浮いた経費相当額を維持費に充てつつ、地球温暖化防止にも繋げようと導入状況等について質問。

総合政策部

1. 北海道創生に向けた計画等管理手法について

人口減少対策、地方創生に向け掲げる戦略・計画を着実に推進、効果へと結びつけるには、可能な限り定量的な管理手法を導入することで感覚的な論議を極力排し、事業等の妥当性に対する客観的な評価・検証ができるような仕組みを確立すべき。産業連関分析や事業仕分け等について質問。

2. 新幹線開業と交通系ICカードについて

新幹線開業に伴う本州からの誘客効果を高め、実際の経済効果に結びつけていく上で早晚、重要課題となるのが、Kitaca、SAPICA等の乗車カード、いわゆる交通系ICカードの仕組み統合ではないか。交通系ICカードの現状と課題、今後の対策について質問。

3. 「社会基盤」としての道立高校について

人口減少を食い止め、創生の要となる産業創造を果たすには、若者を地域に留め、優秀な若者を産業界に送り出す装置、「社会基盤」としての道立高校づくりが不可欠。全国、諸外国から生徒を受け入れ可能な水準の魅力ある学校づくり、北海道版「探究科」の設置等について質問。

総務部

1. 新電力の導入について

再生可能エネルギー普及拡大のため、新電力導入によるコスト削減効果の一定割合を、新電力購入費として（コスト削減効果をにらみつつも）より積極的に充てるべき。道有施設での再生可能エネルギーによる発電事業者活用や知事部局以外の施設への導入促進等について質問。

2. ノーザンレスキューと防災対策について

近い将来の発生可能性が高く、甚大な被害を生ずると想定される根室・釧路沖地震対策。実践的総合防災訓練「ノーザンレスキュー」への参加を通じ得られた様々な課題認識に即し、強い危機感と切迫感を持ち、防災体制の抜本的な見直し、対策を急ぎ進めるべきと、防災対策について質問。

詳しくは、北海道議会のホームページから、実際の質問の様子を動画でご覧いただけます。

<http://www.hokkaido-pref.stream.jfnet.co.jp/index.php>

※北海道議会ホームページ「ホーム」>「議会中継」>「議会録画検索」の順に開いたページで、「●議員名から選ぶ」を選択しクリック。次に表示される議員名一覧から「安住太伸」の文字をクリックし、表示される画面で右側にある「再生」ボタンをクリックいただくと、動画再生ページが表示されます。